


3 土木工事

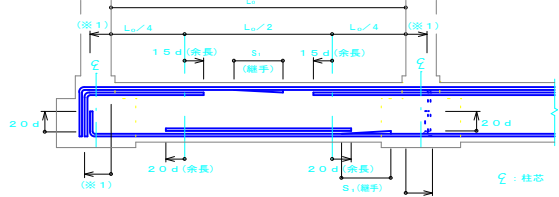
3. 1 3 基礎梁及び底版の継手及び定着

3. 1 3. 1 一般事項

- (1) 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が複数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合は柱内に定着する。やむを得ず梁内に定着する場合は、3. 1 1. 1 図に準ずる。
- (2) 梁筋を柱内に定着する場合は、3. 1 1. 1 (3) による。
- (3) 柱幅<梁幅の場合の定着は、3. 1 3. 3 図による。
- (4)  印は、継ぎ手及び余長を示す。
- (5) 破線は柱内定着の場合を示す。
- (6) 図内(※1)は、3. 1 1. 1 による。

3. 1 3. 2 基礎梁の場合

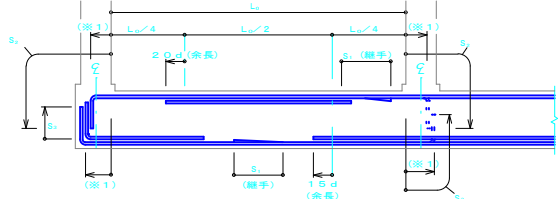
(1) 基礎梁の継手及び定着



3. 1 3. 1 図 主筋の継手、定着及び余長(その1)

3. 1 3. 3 連続基礎及びべた基礎の場合

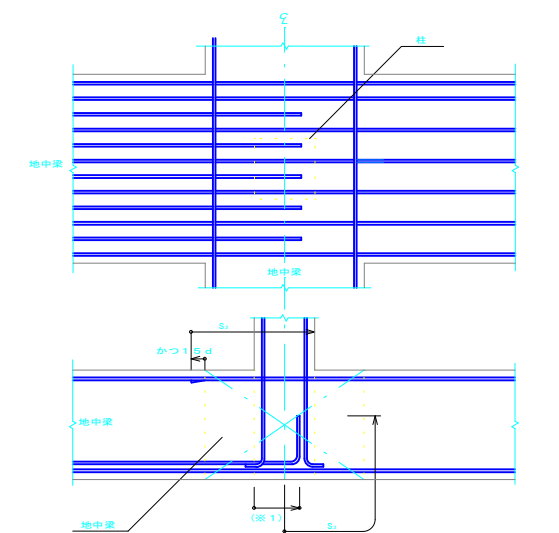
(1) 柱幅≧梁幅の場合



3. 1 3. 2 図 主筋の継手、定着及び余長(その2)

(2) 柱幅<梁幅の場合

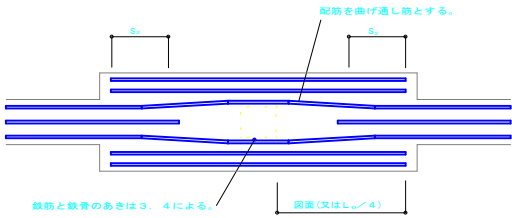
(a) 交差部のスターラップを設ける場合は、図面による。



3. 1 3. 3 図 主筋の継手、定着及び余長(その3)

3. 1 3. 4 梁形を設けない場合の基礎底版


(1) 鉄骨造のB〇X柱等が埋め込まれる場合の端部と中央部の断面の異なる場合



3. 1 3. 4 図 主筋の継手、定着及び余長(その4)

3. 1 4 小梁及び片持梁の配筋要領

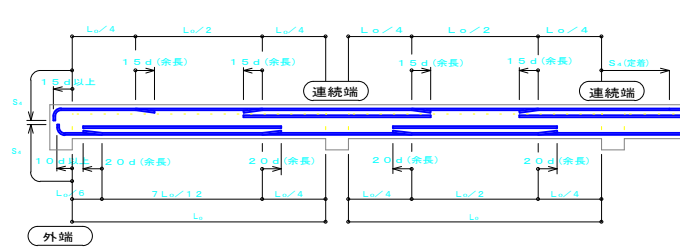
3. 1 4. 1 一般事項

- (1) 図面でない事項は、大梁、梁のあばら筋、及び基礎梁の項に準ずる。
- (2)  印は、余長位置を示す。

3. 1 4. 2 小 梁

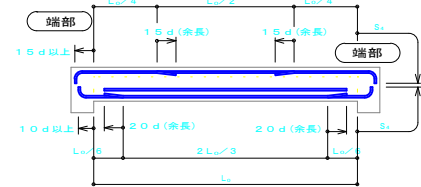
梁内の定着筋において梁せいが小さく垂直で余長が取れない場合、斜めにしてもよい。

(1) 連続小梁の場合



3. 1 4. 1 図 小梁主筋の継手、定着及び余長(その1)

(2) 単独小梁の場合

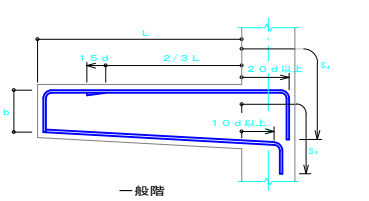


3. 1 4. 2 図 小梁主筋の継手、定着及び余長(その2)

3. 1 4. 3 片持梁筋の定着

(1) 先端に小梁のない場合

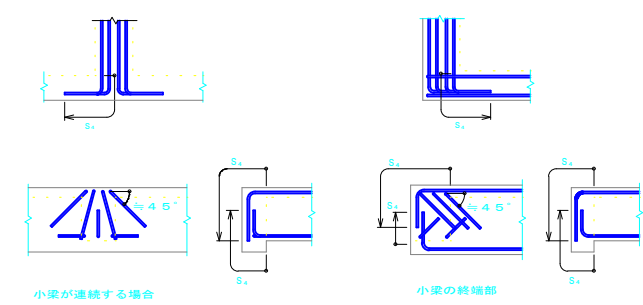
- a. 先端の折曲げの長さbは、梁せいよりかぶり厚さを除いた長さとする。
- b. 梁筋を引き通さない場合は、取り合い部材に定着する。ただし、柱に取り合う場合は、全数を引き通すことができる場合でも、上端筋は、2本以上を柱に定着する。



3. 1 4. 3 図 片持梁主筋の定着及び余長(先端に小梁がない場合)

(2) 先端に小梁がある場合

- a. 上端筋は、先端小梁内に斜めに定着する。
- b. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
- c. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

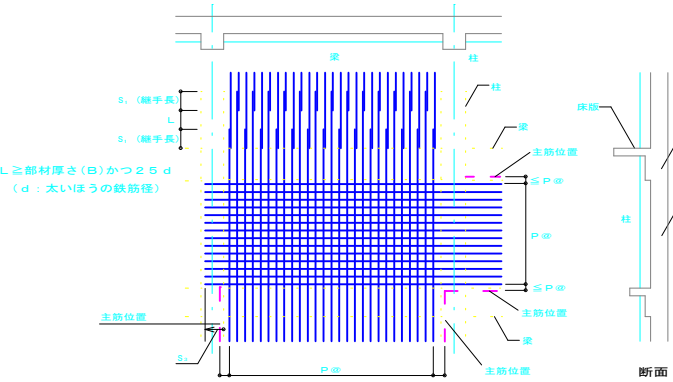


3. 1 4. 4 図 片持梁主筋の定着

3. 1 5 壁の配筋要領

3. 1 5. 1 一般事項

- (1) 壁配筋の継手長さをS<sub>1</sub>、定着の長さは、S<sub>2</sub>とする。
- (2) 土圧及び水圧などを受ける壁及び耐震壁として、図面に示されたものは、継手長さをS<sub>1</sub>、定着長さをS<sub>2</sub>とする。
- (3) 幅止め筋は、縦、横ともD13-@1000mmを標準とする。
- (4) 一般部壁筋は、3. 1 5. 1 図によることとし、隣接する壁の鉄筋と重ね継手を設ける場合は、3. 6 項に従うものとする。



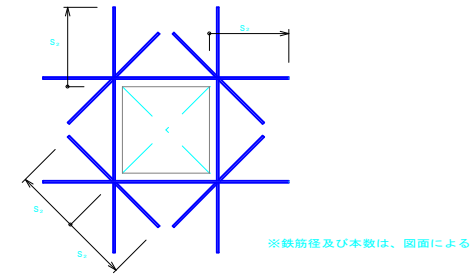
3. 1 5. 1 図 壁の配筋

3. 1 5. 2 耐震壁の開口

- (1) 耐震壁等の開口は、図面以外は設けてはならない。
- (2) やむを得ず開口をあける場合は、構造上安全であることを構造計算によって確認すること。

3. 1 5. 3 壁開口部の補強

- (1) 壁開口部の補強は、図面による。補強筋の長さ及び位置は、3. 1 5. 2 図を標準とする。

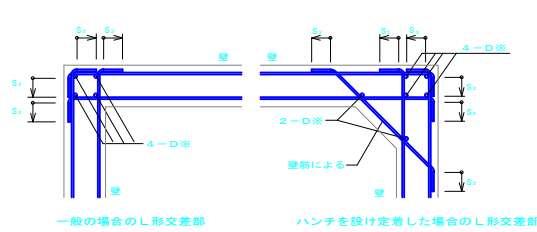


3. 1 5. 2 図 壁開口部の補強要領

- (2) 開口寸法が配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋出来る場合は、補強筋を省略することができる。

3. 1 5. 4 壁の交差部及び端部

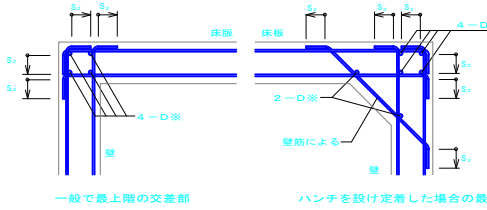
- (1) 壁と壁の交差部は3. 1 5. 3 図による。
- a. 交差部補強筋径D※はD16以上、かつ壁配力筋と同径とする。



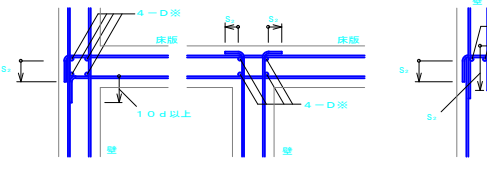
3. 1 5. 3 図 壁と壁の交差部及び端部の配筋

- (2) 壁と床版の交差部は3. 1 5. 4 図による。

a. 交差部補強筋径D※はD16以上、かつ壁配力筋と同径とする。



3. 1 5. 4 図 壁と床の交差部及び端部の配筋



3. 1 5. 4 図 壁と床の交差部及び端部の配筋

- (1) 中間部の交差部 (2) 中間部の交差部 (3) 中間部の交差部
- ※ハンチ筋を設ける場合の配筋は、図面に指示がない場合はS<sub>2</sub>を省略し、ハンチ筋は直筋とすることができる。図面に指示がある場合は、曲げ加工後に定着長S<sub>2</sub>を確保する。定着長S<sub>2</sub>は、いずれの場合も曲げ加工後の直線部にて確保する。

3. 1 5. 4 図 壁と床の交差部及び端部の配筋

※3. 1 5. 4 図は、柱梁構造の場合である。地下階が壁式構造の場合は、構造細目共通図(土木構造物)(2)の「6. 1. 4 壁と床版・底版の交差部」を参照のこと。

|                   |                          |          |          |                       |       |
|-------------------|--------------------------|----------|----------|-----------------------|-------|
| 事業名               | 南魚沼市上水道事業                |          |          |                       |       |
| 工事名               | 令和2年度 改良第7号<br>上田配水池建設工事 |          |          |                       |       |
| 施工地名              | 南魚沼市 蟹沢新田 地内             |          |          |                       |       |
| 構造細目共通図(複合構造物)(4) |                          |          |          |                       | 縮尺 図示 |
| 図面番号              | 第48/61号                  | 工期       | 着手日      | 令和 年 月 日              |       |
|                   |                          |          | 竣工日      | 令和 年 月 日              |       |
| 発注者               | 南 魚 沼 市 長                | を指し<br>図 | 総括<br>主任 | 水道課 上村 栄二<br>水道課 上村 優 |       |
| 請負者               |                          | 配        |          |                       |       |